

神戸市感染症発生動向調査週報

平成30年5月17日 作成

神戸市感染症情報センター

報告定点数 47 ケ所 (内訳)東灘6,灘3,中央3,兵庫3,
設置定点数 48 ケ所 北7,長田3,須磨6,垂水8,西8

第 19週

平成30年5月7日

～

平成30年5月13日

インフルエンザ

疾病名称	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	～79歳	80歳～
インフルエンザ				3		1	4	1	1	10		1								2	1		4		1	1				

小児科

報告定点数 31 ケ所 (内訳)東灘4,灘2,中央2,兵庫2,
設置定点数 31 ケ所 北5,長田2,須磨4,垂水5,西5

疾病名称	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	20歳～						
RSウイルス感染症								3		3	1		2																	
咽頭結膜熱	2		2			2	5	7	3	21		3	9	6	2			1												
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3	6	1		5	3	5	5	17	45				3	4	11	8	2	7	2	2	4	2							
感染性胃腸炎	16	7	19	9	20	9	29	100	21	230	3	9	21	16	21	21	23	17	10	10	8	33	7	31						
水痘	1		1	3	2		1	2	1	11					1	4	2			2			2							
手足口病			1							1			1																	
伝染性紅斑										0																				
突発性発疹		1		2	1	2		7	2	15	1	4	8			1		1												
ヘルパンギーナ				1						1			1																	
流行性耳下腺炎			1		1		1	5	1	9					2	3	1	1	1	1										

百日咳は、平成30年1月1日から全数報告となりました。医療機関で患者を診断した際には、届出基準に基づき、届出の提出をお願いいたします。

眼科

報告定点数 10 ケ所 (内訳)東灘1,灘1,中央1,兵庫1,
設置定点数 10 ケ所 北1,長田1,須磨1,垂水1,西2

疾病名称	東灘	灘	中央	兵庫	北	長田	須磨	垂水	西	計	～6ヶ月	～12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	～14歳	～19歳	～29歳	～39歳	～49歳	～59歳	～69歳	70歳～
急性出血性結膜炎									1	1																1			
流行性角結膜炎	4								1	5														1	2	2			

【定点機関から報告されたその他の感染症情報】

東灘区○ノロウイルス感染症1例:6歳 女
○マイコプラズマ肺炎1例:19歳 女
○細菌性腸炎(カンピロバクター)1例:9歳 男
中央区○アデノウイルス感染症5例:
0歳9ヶ月 女、0歳11か月 男2例、1歳 男、2歳 女
○細菌性腸炎(カンピロバクター)1例:7歳 女
北 区○アデノウイルス感染症2例:1歳 男、5歳 女
垂水区○ノロウイルス感染症3例:年齢性別不詳
○細菌性腸炎(カンピロバクター)1例:年齢性別不詳
○細菌性腸炎(病原性大腸菌O18)1例:年齢性別不詳
西 区○ロタウイルス感染症1例:年齢性別不詳
○ヒトメタニューモウイルス1例:2歳 女

【基幹定点(市内3ヶ所)からの報告】細菌性髄膜炎1例:63歳 男

【行政検査情報】※行政検査:公衆衛生上、問題となる病原体について市が行う検査

○麻しん(臨床診断例) 25歳 女性 検査結果:PCR陰性のため発生届出取下げ
・4月下旬に沖縄へ旅行 ・症状:発熱、発疹、鼻汁 ・ワクチン接種歴不明 ・麻しん患者との接触歴不明

【麻しんについて】

沖縄県や愛知県などで麻しん患者の発生が続いています!
本市の保健所・保健センターや医療機関に麻しんに関する問い合わせが増えていますが、
現在、市内で麻しん患者は発生していません。

[麻しん\(はしか\)について 神戸市ホームページ](#)

【コメント欄の用語解説】

※ **神戸モデル(感染症早期探知・地域連携システム)**:地域・学校園・施設・医療機関等と保健所・区との連携強化により
施設から感染症または感染症を疑う事例の発生時に報告をいただいている。

【お知らせ】 バックナンバーは神戸市のホームページからご覧いただけます。

[神戸市 発生動向【検索】](#)

[「I」情報センター」ホームページを開設しています。詳細はこちらをクリック](#)

例年、ゴールデンウィーク明けの数週間は、感染性胃腸炎患者が増加します。
小児科定点医療機関からの感染性胃腸炎患者の報告数は増加傾向で、病因物質としてノロウイルスやアデノウイルスなどのウイルスやカンピロバクターなどの菌が検出されています。
また、神戸モデル連絡票等では、市内の幼稚園、保育園や小学校から感染性胃腸炎の複数患者の発生報告があります。
病原体定点医療機関の迅速検査キットでウイルス陰性であった検体を市で検査したところ、ノロウイルスGIIが検出されました。ノロウイルスは、遺伝子型によって迅速検査キットの検出感度が異なります。迅速検査の結果が陰性の場合にも症状からノロウイルスが疑われる場合には、次亜塩素酸ナトリウムを用いた消毒を実施しましょう。

神戸市感染症発生動向調査週報

神戸市感染症情報センター 2018年5月17日作成

全数把握対象感染症発生状況

(二類感染症 結核)

結核届出患者数は12人(うち潜在性結核感染症6人)です。

全数把握対象感染症発生状況

(三類感染症 パラチフス)

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	菌種	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
男	20代	2018年4月23日	2018年5月4日	2018年5月8日	-	分離・同定による病原体の検出(血液)	高熱 比較的徐脈 下痢	不明	渡航歴あり (バングラデシュ)

全数把握対象感染症発生状況

(四類感染症 E型肝炎)

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
男	70代	2018年4月20日	2018年4月20日	2018年5月7日	-	血清IgA抗体の検出	全身倦怠感 肝機能異常 その他(転倒、ふらつき)	不明	-

全数把握対象感染症発生状況

(四類感染症 A型肝炎)

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
男	30代	2018年5月7日	2018年5月10日	2018年5月14日	-	血清IgM抗体の検出	全身倦怠感 発熱、食欲不振 肝機能異常	同性間性的接触	-

全数把握対象感染症発生状況

(五類感染症 ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く))

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
男	30代	2018年5月2日	2018年5月7日	2018年5月12日	B型	血清でのIgM HBc抗体の検出	全身倦怠感 褐色尿、黄疸 肝機能障害	異性間性的接触	-

全数把握対象感染症発生状況

(五類感染症 劇症型溶血性レンサ球菌感染症)

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
女	90代	2018年4月16日	2018年4月17日	2018年4月18日	-	分離・同定による病原体の検出(血液)	ショック・腎不全 軟部組織炎	創傷感染	-

全数把握対象感染症発生状況

(五類感染症 後天性免疫不全症候群)

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
男	50代	-	2018年4月28日	2018年5月9日	無症候性キャリア	ELISA法 Western Blot法	-	不明	-

全数把握対象感染症発生状況

(五類感染症 水痘 入院例)

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
男	30代	2018年5月3日	2018年5月5日	2018年5月9日	臨床診断例	臨床決定	発熱・発疹	不明	ワクチン接種歴不明

全数把握対象感染症発生状況

(五類感染症 侵襲性肺炎球菌感染症)

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
男	60代	2018年4月22日	2018年5月7日	2018年5月9日	-	分離・同定による病原体の検出(血液)	発熱、咳 全身倦怠感 肺炎、菌血症	不明	ワクチン接種あり (2回)
女	0~4歳	2018年5月6日	2018年5月6日	2018年5月8日	-	分離・同定による病原体の検出(血液)	発熱、痙攣 菌血症	不明	ワクチン接種あり (4回)
男	0~4歳	2018年5月5日	2018年5月8日	2018年5月9日	-	分離・同定による病原体の検出(血液)	発熱 菌血症	その他 (血行感染)	ワクチン接種あり (4回)

全数把握対象感染症発生状況

(五類感染症 梅毒)

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
男	70代	不明	2018年5月7日	2018年5月7日	早期顕症梅毒I期	RPRカードテスト TPHA法	硬性下疳	異性間性的接触	-
女	20代	-	2018年5月7日	2018年5月7日	無症状病原体保有者	RPRカードテスト TPHA法	なし	異性間性的接触	-

全数把握対象感染症発生状況

(五類感染症 播種性クリプトコックス感染症)

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
男	40代	2018年5月8日	2018年5月8日	2018年5月8日	/	ラテックス凝集法によるクリプトコックス荚膜抗原の検出(髄液・血液)	頭痛、発熱 胸部異常陰影	-	免疫不全

全数把握対象感染症発生状況

(五類感染症 バンコマイシン耐性腸球菌感染症)

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	耐性遺伝子	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
男	50代	2018年4月23日	2018年4月23日	2018年5月12日	未実施	分離菌からの耐性遺伝子の検出	発熱 その他(褥瘡)	不明	-

全数把握対象感染症発生状況

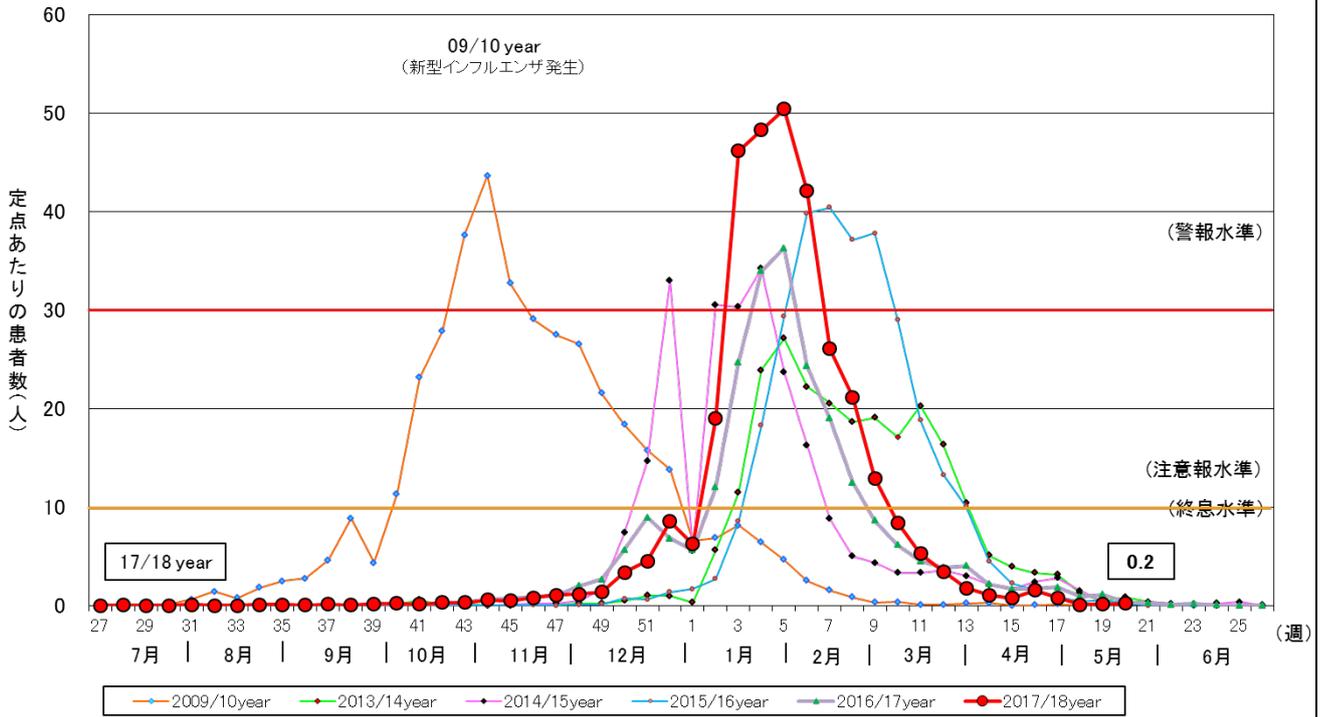
(五類感染症 百日咳)

性別	年齢	発病年月日	初診年月日	診断年月日	病型	診断方法(検査法)	症状	推定感染原因	備考
女	0~4歳	2018年5月1日	2018年5月1日	2018年5月12日	-	検体からの病原体遺伝子の検出(LAMP法)	持続する咳 夜間の咳き込み	家族内感染	ワクチン接種歴あり (3回)
女	5~9歳	2018年4月30日	2018年5月7日	2018年5月11日	-	検体からの病原体遺伝子の検出(LAMP法)	持続する咳 嘔吐	不明	ワクチン接種歴不明

神戸市環境保健研究所における病原体分離・検出状況

病原体	検体	区	状況
A型インフルエンザウイルス (H3亜型)	鼻腔ぬぐい液	須磨	4歳6ヶ月男(4/6採取、37.9℃、インフルエンザ、ワクチン未接種)、家族内発生
	鼻腔ぬぐい液	西	11歳女(4/20採取、39.4℃、インフルエンザ、ワクチン未接種)
	鼻腔ぬぐい液	垂水	10歳女(4/23採取、38.7℃、インフルエンザ、ワクチン未接種)
B型インフルエンザウイルス (山形系統)	鼻腔ぬぐい液	須磨	4歳男(4/24採取、38.8℃、インフルエンザ、ワクチン接種歴不明)
水痘帯状疱疹ウイルス	水疱内容物	東灘	1歳0ヶ月女(5/2採取、38℃、水痘)
アデノウイルス31型	便	西	1歳4ヶ月男(4/20採取、37.6℃、感染性胃腸炎)
ライノウイルス	咽頭ぬぐい液	東灘	5歳6ヶ月男(4/26採取、38.2℃、手足口病)
侵襲性肺炎球菌	菌株	東灘	1歳男 発熱、菌血症、血清型:12F(12A/44/46)、ワクチン接種歴あり(4回)
侵襲性肺炎球菌	菌株	中央	1歳男 発熱(40.3℃)、熱性けいれん、意識障害、菌血症、血清型:12F(12A/44/46)、ワクチン接種歴あり(4回)
侵襲性肺炎球菌	菌株	中央	63歳男 頭痛、発熱、意識障害、髄膜炎、菌血症、血清型:15B/15C、ワクチン接種歴あり(2回)
侵襲性肺炎球菌	菌株	中央	26歳女 発熱、全身倦怠感、菌血症、血清型:23A、ワクチン接種歴なし
侵襲性肺炎球菌	菌株	中央	55歳男 頭痛、発熱、全身倦怠感、嘔吐、意識障害、項部硬直、髄膜炎、菌血症、血清型:6C/6D、ワクチン接種歴不明
侵襲性肺炎球菌	菌株	須磨	1歳女 発熱、痙攣、菌血症、血清型:12F(12A/44/46)、ワクチン接種歴あり(4回)
侵襲性肺炎球菌	菌株	北	2歳男 発熱、痙攣、菌血症、血清型:12F(12A/44/46)、ワクチン接種歴あり(4回)

定点あたりのインフルエンザ患者報告数



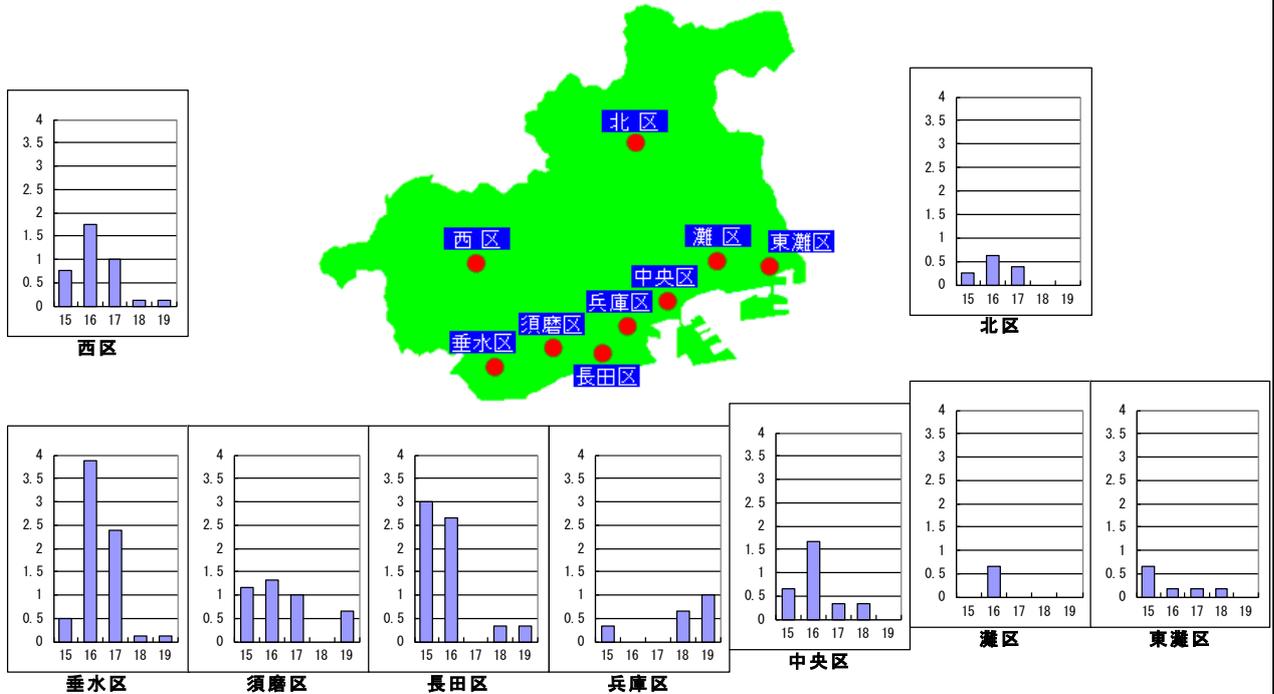
疾病別・地区別・定点あたり患者数マップ

第 15 週 平成30年4月9日

~

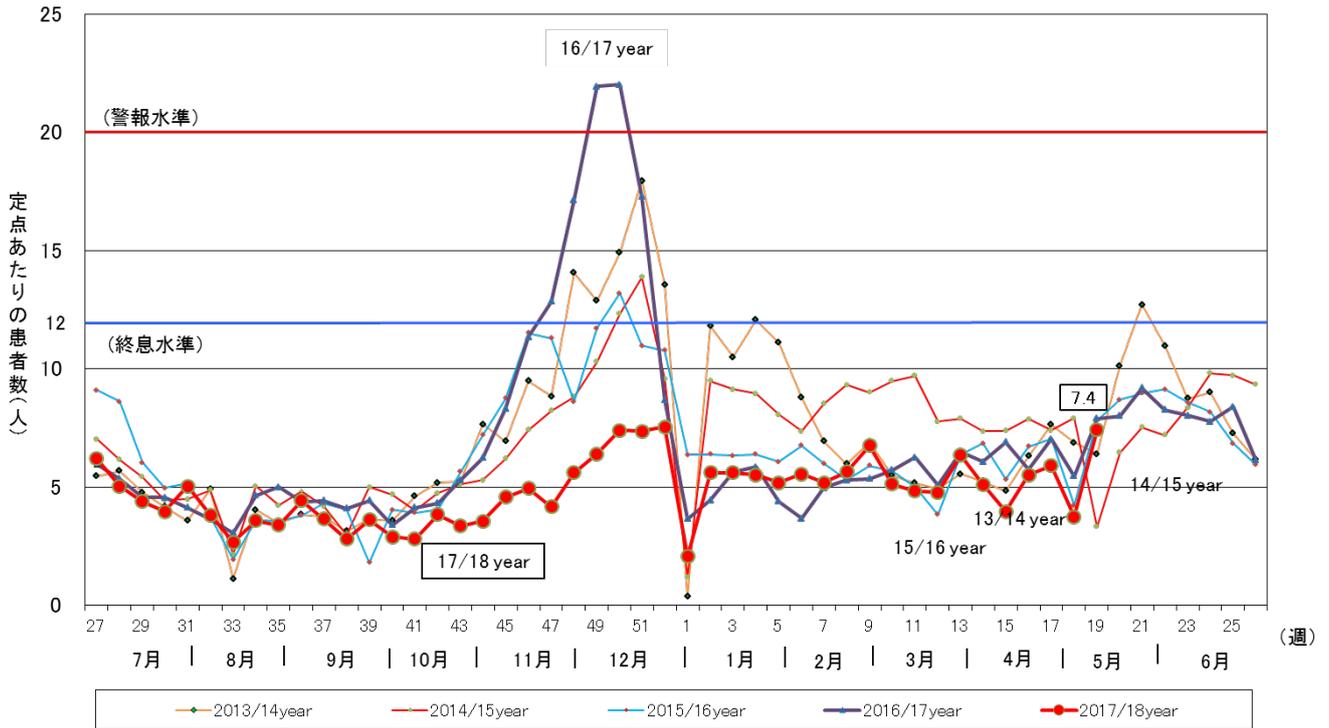
第 19 週 平成30年5月13日

インフルエンザ



※ このマップは各区の定点報告医療機関の報告数を平均シグラフ化したものです。各区の定点医療機関数は区の人口に合わせて設定しています。すべての医療機関からの報告ではないため、区内の経時的な傾向を把握することはできませんが、区間の違いを正確に把握できるものではありません。

定点あたりの感染性胃腸炎患者報告数



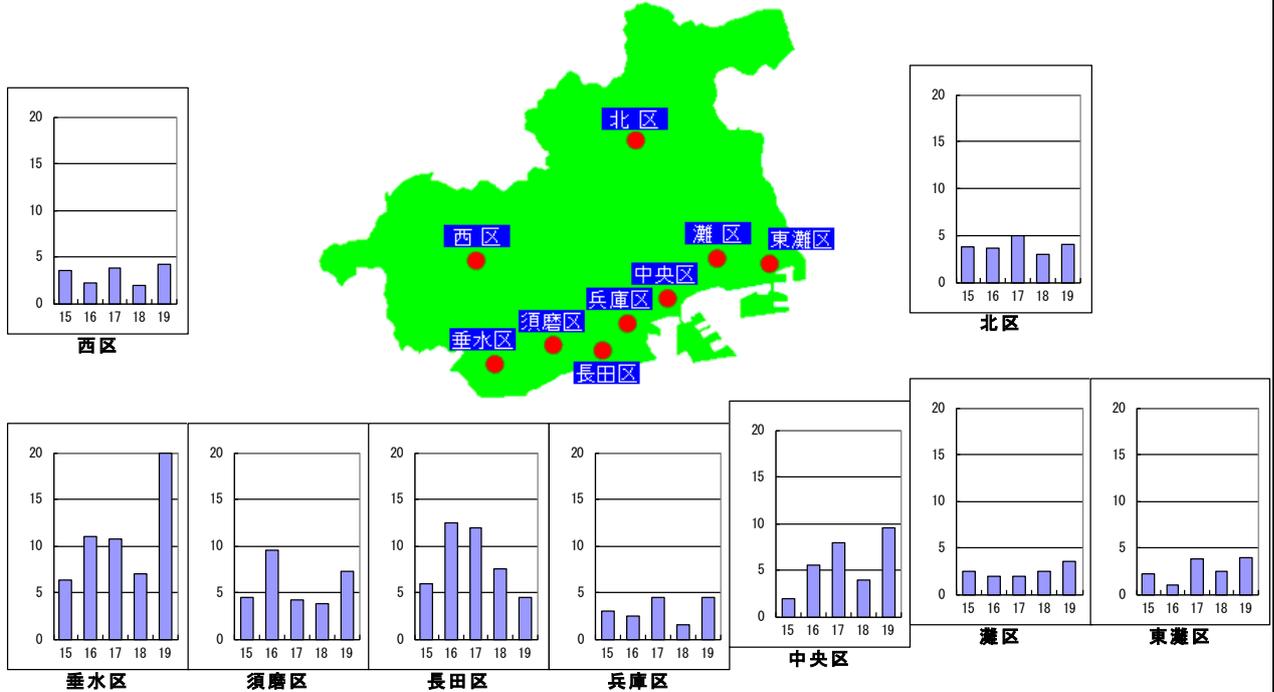
疾病別・地区別・定点あたり患者数マップ

第 15 週 平成30年4月9日

~

第 19 週 平成30年5月13日

感染性胃腸炎



※ このマップは各区の定点報告医療機関の報告数を平均しグラフ化したものです。各区の定点医療機関数は区の人口に合わせて設定しています。すべての医療機関からの報告ではないため、区内の経時的な傾向を把握することはできませんが、区間の違いを正確に把握できるものではありません。